

◆リレー寄稿
～再建に向けて



釜石市職員生協
専務理事 佐々木 孝氏

東日本大震災の発災から、あと1カ月程で、1年となりますが、当生協の状況につきまして、ご報告いたします。

震災の被害を受け、店舗が全壊したこともあり、生協の存続について、4月21日の理事会、8月9日の総会にはかったところ、全員の賛同を得、再建に向けて取り組むこととなりました。

その後、9月1日からは、釜石市役所の分庁舎脇に、狭いながらもコンテナの仮設店舗を設置し、店長とパート職員の2人体制で再開することができました。

仮設店舗での再開にあたり、日本生協連様をはじめ、さまざまな方面からの資金面やアドバイス等、多くのご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

まもなく、新たな店舗も、庁舎内の以前とほぼ同じ場所にオープンします。仮設店舗の約2倍の広さになることから、現在は、その準備に取り組んでいます。

離島・大島に灯油を無料配達

いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまでは、全国の生協及び組合員からの募金を活用し、生協の灯油配達利用登録者に初回の灯油 18ℓと灯油缶収納ボックスを無料で提供しています。みやぎ生協では、1月21日に宮城県漁協の協力のもと、気仙沼の離島・大島へ灯油と灯油缶収納ボックスの無料配達を実施しました。同時に全国から寄せられた灯油ポンプや使い捨てカイロ、消毒ジェルも配布し、多くの方に喜ばれました。収納ボックスには全国からの善意である旨の「がんばろう東北！」ロゴ入りステッカーが貼ってあります。共同購入（宅配）商品部統括の菅原桂氏は「ステッカーで住民とわれわれの心の交流が広まると思います」と話していました。交通が不便な離島は被災後の対応が特に懸念されており、継続的な支援が求められます。



ローリー車で、灯油が運ばれてきた。



この日の灯油配達を心待ちにしている住民も多かった。

<ひと>



「代わりに伝えていきたいと思いました」

コープかながわ
ハーモス深谷店 竜崎 浩さん



「二人」（被災から137日目）：竜崎 浩さん撮影

「私たちがつらくて被災地の写真を撮れなかったときに、代わりに写真を撮ってくれた方がいるんです」「つなごろう CO・OP アクション情報」編集部が竜崎さんを知ったきっかけは、いわて生協の理事の言葉でした。コープかながわの竜崎さんは、7月4日から8月5日にかけて岩手・けせん地区で被災地の組合員拡大の活動を行ないました。悲惨な現場を目の当たりにし、言葉が出なかったそうです。この情景を、ただ見て終わりではなく、多くの人に伝えていかなければと思い、撮影を行ないました。

「つらくてカメラを持つ手を下げてしまったこともありました。でも、いわて生協の職員や理事の思いを

くみとり、『私が代わりに伝えていかなければ』と思ったのです」（竜崎さん）。

この写真は、コープかながわの組合員（旧理事）の協力のもと、さまざまな店舗やイベントで展示され、カンパ活動や多くの組合員が現地の様子を知るきっかけとなりました。

「生協は何かあったときに、全国から駆け付けることができる組織です。そういった意味でも生協・共済の加入者をもっと増やして『たすけあいの輪』を広げていきたいですね。」

【一言メッセージ】

- ・福島の問題は、世界の問題です。福島だけでなく、みんなで考えていく問題です。（福島・Nさん）
- ・継続的な交流は、相手の本音が聞け、適切な支援へとつながります。（神戸・Uさん）